

# 自転車安全教育プログラムの検討

## —新しい安全教育の実施方法についての検討—

○高柳 京征 1)、今田 和貴 1)、谷田貝 一男 2)、橋本 修左 3)

1) 武蔵野大学人間科学部,2) 自転車文化センター,3) 武蔵野大学人間科学研究所,

### 1. はじめに

従来の自転車安全教育プログラムはルールを中心に教えるものであった。しかし平成23年度に行われた警察庁のアンケート調査によると違反者の多くは自転車の交通ルールについて認知はしているが、守っていないと答える人が多かった。そこで従来の自転車安全教育プログラムとは異なる教育プログラムも必要であると考え以下のものを目的とした教育プログラムを開発し、3回実施して検証したのでこれらの結果について報告する。

### 2. 実施目的

報告その1では、筆者が調査した道路環境と自転車を中心とした通行状況をベースに、自転車利用者独特の心理状況から生じる危険個所とその安全対策を解説する方法を紹介した。しかし、筆者はすべての危険個所を把握しているわけではなく、安全対策も一般論的になっている。このため、講習会を開催する地域を生活圏として自転車を日常利用している人たちに集まってもらい、直接利用状況・危険個所・安全対策を聴取し、その結果をまとめて地元フィールドバックさせることで、自転車利用者に対し当事者意識を促す教育方法を考案し、その有効性を検証する。このため、ここでは前報その1と同じ中野区鷺宮地区を対象として取り上げた。

### 3. 実施方法

#### 3-1. 実施対象

各回において生活範囲の重複する居住者を募り、毎回少数名(7~10名程度)から構成される2グループに分けて同時に約2時間のGWとして実施した。

#### 3-2. 実施方法

1. 全体会において筆者らにより GW の目的と意義、作業方法について概説した後、2つのGへ分かれて着席して頂く。各自で名札を作成設置して頂いた後、自己紹介と共に、グループのリーダー(GL)を選出してもらう。
2. 各Gのファシリテーターを筆者らが務め、GW方法の詳細を説明した後、KJカード、危険度マップ添付用シールを各20枚、日常自転車使用経路図等を配布する。
3. 一枚の地図を用いて危険と思われる箇所にシールを各自貼付して頂き、自転車危険度マップを作成した後、シールの集中した箇所を中心に Google Street View (図1)、LEGO (図2)等を使用して「何故危険か」、「どんな対策が考えられるか」について自由討議して頂き、それら討議の結果をもとに各々を KJ カード各1枚ずつに記入して頂いた。
4. 各 GL は討議の結果を踏まえて要点を整理して全体会において発表して頂き、ファシリテーターはそれらの内容について適宜コメントした。(図3)
5. 終わりに GW 参加者は感想・意見等アンケート用紙に記入のえう提出して頂いた。また、今後の GW では日常自転車経路図を作成してもらう必要を感じたため、そのようにした。



図1 Google Street View を用いた討論の様子



図2 LEGO を用いた討論の様子



図3 参加者の発表の様子

#### 4. 結果及び考察

従来の警察、自治体、各種団体等により開催されている安全講習会も、目的、参加者によって大きな成果を挙げている。しかしながら、その一方で、昨年度の研究<sup>(1)</sup>により、基礎的な交通ルールやマナーについては多くの人々にかなり周知されてきているものの、自転車利用者の運転特性や自転車事故の実態についてさらに解説して欲しい、あるいは、自分たちが住む町のどこが危険かについてもっと詳しく知りたいという意見も多く聞かれた。すなわち、自らの事として役立つ情報が得られるような工夫をすることも重要であると思われた。このために地元の道路環境・自転車利用状況を筆者の事前調査と合わせて、地元の人たちの情報を集め、それを筆者がまとめ、その結果を新たな情報として地元を提供する方法が有効であることが今回の開催で確かめられた。

今回の実施内容について、参加者から挙げた意見を一部抜粋する。

1. 各地域の注意しなければならない場所やどのような場所に気をつけるべきかわかった。
2. わかっていてもやってしまう違反をやめようと思った。
3. 事故や怪我に繋がりそうなところの具体的なシチュエーションが浮かんだ。
4. T字路で、行き止まり側道路に「止まれ」の標識はあるが、カーブミラーがないため、もしくはカーブミラーが自転車利用者に対して有効でないため一時停止しないで飛び出す自転車があつて危険
5. 道路の幅が狭いにも関わらず歩行者が多いので、信号待ちをするとき、自転車の停止位置が確保できないために危険
6. 東西方向の道路から見て、妙正寺川に沿った道路の存在がわかりにくいいため、この方向に対する確認をしないクルマがいるために危険

これらの意見は対象地域に特有な具体的な意見であると考えられ、多くの参加者に当事者意識を促すことができたのではないかと考えられた。また、第一回の教育プログラムの実施時点では Google Street View のみでの GW になったが、参加者が Google Street View を指さしながら危険箇所を示すなどの若干の説明に苦勞するような動作をしていた。よってより具体的に、また同時に様々な角度から見えるような模型のようなものを用意する必要があると考えた。よって第二回以降の教育プログラム以降では新たに LEGO を用いて講習を行った。自由討議の間にファシリテーターが Google Street View や LEGO を使用して危険の内容を具体的に説明することによって、安全対策などを検討しやすかった等の意見も挙げた。

現在広く行われている安全教育プログラムと比較すると今回のプログラムによって、当事者としての意識をより強く持っていただくこともできたと考える。そして、道路を熟知した地元住民であるからこそ分かる危険個所の指摘も多く、それらを基にした自由討議によって生まれる具体的な対策案をまた地元フィールドバックすることもできたと思われる。しかしながら、GWを中心とした作業内容となるために既存の安全教育プログラムよりも少人数を対象とせざるを得ないこと、また、自由討議を円滑に進めるためにファシリテーターらによる事前の入念なフィールド調査も必要なことから、効率的なフィールドバック、成果展開のための方法の工夫が今後の課題であると言える。

《参考文献》

1) 自転車利用者に対する安全教育の在り方に関する研究—武蔵野市を対象地域として— 中島星司 武蔵野大学

-----<<連絡先>>-----

高柳京征  
武蔵野大学人間科学部  
〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3  
電話 03-5530-7454  
FAX 03-5430-3822  
E-mail: s1131187@stu.musashino-u.ac.jp